

医科歯科連携による広島市民の健康長寿を目指して



川原正照 一般社団法人広島市歯科医師会会長

本年6月末の定時総会において、一般社団法人広島市歯科医師会の会長職を拝命いたしました。所期の目的達成に向けて粉骨砕身尽力をいたす所存ですので、広島市医師会の先生方にもよろしくご指導を賜りますよう誌上をお借りしてお願い申し上げます。

さて近年我が国は、医療の進歩や生活習慣の改善によって平均寿命が延伸し、急速な高齢社会を迎えつつあると同時に、平均寿命と健康寿命の乖離が生じた結果、要介護者が増加するという大変困難な事態に直面しています。そして介護・医療・福祉を必要とする高齢者の増加に対して、医療に関わる多くの関係者の連携が必要となってきました。

医科歯科連携も例外ではありません。近年、歯と口の健康が全身の健康と深く関わっていることを示す事象がエビデンスをもって明らかとなっていることは先生方のお耳にも届いていることと思います。

例えば高齢者の残存歯数とアルツハイマー型認知症との関係については、物をよく噛んで食べることができなければ中枢神経が刺激されることも少なくなり、残存歯数が少ない人ほど海馬や前頭葉が委縮する傾向にあることがわかっています。残存歯数の多い人や、たとえ歯がなくても義歯が適切に装着されている人ほど認知症に罹患しにくいということです。

また歯周病についていえば、歯周病であることが糖尿病を悪化させ、逆に糖尿病が歯周病をより進行させることが証明されていますし、アテローム性動脈硬化部位から歯周病原菌の遺伝子が検出され、口腔内からの持続的

な炎症物質の供給がアテローム性動脈硬化の誘因の一つになる可能性が高いと考えられています。歯周病による細菌感染と局所の炎症が直接、糖尿病や血管系疾患などの生活習慣病に悪影響を及ぼす可能性があることがわかってきたのです。

さらに口腔ケアについても、高齢者肺炎のうちの大部分を占める誤嚥性肺炎の発症率が適切な口腔ケアによって著しく低下することはすでに知られているところですが、がん患者の治療前や治療開始後に歯科医師や歯科衛生士による専門的口腔ケア(周術期口腔ケア)を行うと、術後合併症の減少や早期離床、早期経口摂取の開始、在院日数の短縮といった様々なメリットがあることが統計的に明らかになっておりますし、最近ではSSI(手術部位感染)に関しても口腔ケア群とコントロール群で有意差が出たという報告もあります。

歯科医療が全身医療の質の向上に寄与するデータは枚挙にいとまがありません。いつまでも健康で快適な人生を送るために、歯と口の健康管理はますます重要であり、長くなった平均寿命に歯と口の健康が伴ってこそ、理想的な健康長寿を送ることが可能になると我々は考えます。

広島市医師会の先生方とは、今後、病診連携は言うに及ばず、広島市連合地対協、各区地対協などで“顔の見える関係”を築きながら、広島市民の健康増進に寄与していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、会長就任のご挨拶とさせていただきます。